

学校と対話の思考と技術

基礎プログラム1・2

6月開講、

受講生募集中！

平成27年5月31日(日)〆切

<http://tarl.jp>

募集概要・申込方法（平成27年5月31日〆切）

対象

基礎プログラム1〔思考編〕 アートプロジェクトの運営に関わっている人、関わる意思のある人
基礎プログラム2〔技術編〕 基礎プログラム1〔思考編〕修了生、またはアートプロジェクト運営経験者
※ジャンル・分野は問いません

募集人数

各30名 ※書類および面接により受講生を決定します

受講形式

通年（原則として、全日参加）

受講料

一般 60,000円

学生 40,000円（各最大10人まで）

※分割払いあり（最大3回まで）／初回の振込みは6月19日（金）〆切／受講料にはテキスト、資料、ID（受講証）
代が含まれます／「現場に出会う」の回の交通費、イベント参加料などはすべて自己負担となります

- ・ アーツカウンシル東京 ROOM302 開室日には、P+ARCHIVE センターの図書の活用、アートプロジェクトに関するさまざまな資料や、東京アートポイント計画の成果物を閲覧できます。
- ・ プログラム修了生には修了証を発行します。

申込方法

Tokyo Art Research Lab 公式サイト（<http://tarl.jp/>）からお申込みください。

受講までの流れ

5月17日（日）	説明会
5月31日（日）	受講生募集締め切り
6月上旬	第一次選考（書類）
6月12日（金）～14日（日）	第二次選考（面接）
6月中旬	受講生決定
6月19日（金）	初回受講料振込み〆切
6月28日（日）	基礎プログラム1・2 ガイダンス

メイン会場

アーツカウンシル東京 ROOM 302

住所：〒101-0021 東京都千代田区外神田6-11-14（3331 Arts Chiyoda 3F）

お問い合わせ

TARLの各プログラムについて

TARL事務局（一般社団法人ノマドプロダクション）

e-mail: info@tarl.jp tel: 080-3171-9724 fax: 03-6740-1926

TARL全般に関するお問い合わせ

アーツカウンシル東京（平日10:00-18:00）

e-mail: info-ap@artscouncil-tokyo.jp tel: 03-5638-8803

主催：アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）

企画協力：一般社団法人ノマドプロダクション

学びを深める3つの仕組み

3年で基礎力を養う

アートプロジェクトの現場で求められる基礎力を3年間で

身につけられるよう構成しています。

今年度は、「思考編」に加え、「技術編」を新たにスタートします。

平成28年度には「対話編」も開講予定。

豪華ゲスト陣から直接学ぶ

アートプロジェクトの第一線で活躍するアートマネージャーや

アーティスト、多彩な分野の研究者が講師として登壇。

今思考すべきトピックや実践的なノウハウ、現場の生の声を直接届けます。

多様な仲間と一緒に考える

30名のクラスに集まるメンバーは、

現場経験もバックグラウンドも年齢もさまざま。

ディスカッションやグループワークを通して、共に学び合う場をつくれます。

学びをささえるサポート体制

現場経験豊富なスクールマネージャーが学びをサポート。

授業の予習・復習のサポートに加え、

キャリアプランや目標を相談できる面談や、

プロジェクト現場のコーディネート、各種情報の提供まで

受講生の学びに伴走します。

スクールマネージャー

坂本有理、佐藤李青、古屋梨奈、嘉原妙（アーツカウンシル東京）

橋本誠、及位友美、阿比留ひろみ（一般社団法人ノマドプロダクション）

坂田太郎（サイト・イン・レジデンス）

必要なのは基礎力。「思考と技術と対話」です。

「思考と技術と対話の学校」は、
アートプロジェクトを動かす力を身につけるための学校です。

社会のさまざまな場面で立ち上がっているアートプロジェクトの現場。
そこでは今ある行政や経済の仕組みとは別の発想で、
地域で起こっていることに向き合い、何ができるかを考え、
企画をかたちにする力が求められています。

この学校では、アートプロジェクトを動かす人に求められる能力を、
「思考」「技術」「対話」という3つの言葉で表現することにしました。

「思考」は、社会動向を見据え、どのようなプロジェクトが必要か、
また、そのために求められるオペレーティングシステム(OS)を
考える能力のこと。

「技術」は、文字通りスキル。
会議の設定の仕方からプロジェクトの現場の仕切り方といった実務、
記録をアーカイブ化し未来へと発信すること、
また評価までのマネジメントループなど、
さまざまな局面で必要とされる事柄を遂行する能力。

「対話」は、「思考」と「技術」を鍛えるために必須の力。
プロジェクトの情報を共有し、いろいろな立場の人と協働し、
新たな展開を切り開くための能力です。

これら3つの基礎力の習得を通し、
既存の概念や枠組みにとらわれない新たな発想で
アートを切り口に社会的な課題と向き合い、
プロジェクトを構想し、かたちにできるアートマネージャーの
プロフェッショナルの育成を目指しています。

基礎プログラム1

思考編 アートプロジェクトを動かすための 考える力を養う

1年目は、思考力、想像力を鍛える授業が中心です。授業での対話や課題を通して、
「なぜアートプロジェクトを行うのか」「社会的な課題に対してどうアプローチをするか」
「自分はどのように関わりたいか」など、問いを立てながら学んでいきます。

- 1 **仕事を知る** (午前の授業)
現場の仕事とは何か。第一線で活躍するゲスト講師から学ぶ。
- 扱うテーマ**
- アートNPO事務局の仕事
 - アートプロジェクトの調整・交渉、広報、記録・評価・検証
 - 他分野との連携
 - 作品のインストール（美術編、演劇編）

ゲスト：
長内綾子（Survivart／キュレーター）、小林瑠音（應典院アートディレクター／文化政策研究者）、
佐脇三乃里（認定NPO法人黄金町エリアマネジメントセンターアシスタントディレクター）、
田中真実（NPO法人STSポット横浜地域連携事業部ディレクター／横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局長）、
新居音絵（エヌ・アンド・エー株式会社［ナンジョウアンドアソシエイツ］取締役）、松尾真由子（Breaker Project事務局長）、
宮永琢生（演劇プロデューサー）

- 2 **思考を深める／想像を広げる** (午後の授業)
どのようなアートプロジェクトが求められているのか。
社会的テーマや多様な価値観から考える。

扱うテーマ
まち、地域、コミュニティ、生活、仕事、コミュニケーション、共在、公共、社会など

ゲスト：美術、演劇、建築などの分野の専門家や、社会学などの研究者計13名を予定

- 3 **現場に出会う**
アートプロジェクトの拠点などを巡り、当事者の話を聞き、現場を知る。

日程 (ガイダンスを除き、すべて土曜開催)

ガイダンス：平成27年6月28日（日）
前期：7月11日、7月25日、8月8日、9月12日、9月26日
後期：10月17日、11月7日、11月28日、12月19日、平成28年1月16日

午前の授業：10:15～13:00 お昼休憩：13:00～14:00 午後の授業：14:00～17:30
※授業時間以外の課題、グループワークあり
※授業の始まり、終わりにホームルームの時間あり
※「現場に出会う」の回は授業時間延長の可能性あり

基礎プログラム2

技術編 企画をかたちにするための スキルを身につける

2年目は主に基礎プログラム1の修了生が対象です。企画を実現する力に重点を置き、
「演習プログラム」を通して少人数のグループワークに取り組みます。複数のケースを想定しながら繰り返しのトレーニングすることで、アートプロジェクトを動かすためのスキルを身につけていきます。

- 1 **仕事を知る** (午前の授業)
現場の技術とは何か。運営サイクルに呼応した実践手法を学ぶ。
- 扱うテーマ**
事業の設計、資金調達、広報、記録・アーカイブ、報告・検証・評価など

- 2 **企画をかたちにする** (午後の授業)
どうアートプロジェクトをつくるのか。演習課題で企画・運営プロセスを身につける。

扱う演習テーマ

- ①トーク／シンポジウム／フォーラムのつくり方
- ②まちなか展覧会／ツアー／公演のつくり方
- ③活動拠点のつかい方

日程 (すべて日曜開催)

ガイダンス：平成27年6月28日（日）
前期：7月12日、7月26日、8月9日、9月13日、9月27日
後期：10月18日、11月29日、12月20日、平成28年1月17日、2月7日

午前の授業：10:15～13:00 お昼休憩：13:00～14:00 午後の授業：14:00～17:30
※授業時間以外の課題、グループワークあり
※授業の始まり、終わりにホームルームの時間あり

基礎プログラム3

対話編 チームでプロジェクトを 実施するための対話力を磨く

3年目は主に基礎プログラム2の修了生が対象です。[思考編]、[技術編]の応用編として、実際にアートプロジェクトを企画し、実施します。プロジェクトを実現させるための調整や交渉など、チームプレイによる実践を通して、アートプロジェクトに不可欠な対話力を磨きます。 ※平成28年度開講予定